

平成27年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立高倉小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

ゆたかな心 たしかな学力 たかくらの子
 ・考える子ども
 ・助け合う子ども
 ・やりぬく子ども

今年度の指導の重点

・たくましく生きるための「基礎・基本」の定着を図り、主体的に取り組む学習態度を育てる。
 ・自然や人とのふれあいを深め、思いやりの心とコミュニケーションの力を育てる。
 ・「高倉のあたりまえ(ルールを守る、宿題をきちんとする、みんなで一つ)」の徹底を通して心身ともに健やかで、行動力のある子どもを育てる。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

全国(小6)
 国語A、算数A、算数B、理科は、全国・県平均に比べ正答率が高い。
 国語Bは県平均に届かない。
 国語A・Bともに、「文法」「話すこと・聞くこと」「記述式の問題」に課題がある。
 算数A・Bともに、多くの項目で県平均以上だが、「割合」「理由を書く」問題の正答率は低い。
 理科は多くの項目で県平均以上だが、「グラフなどの情報分析」をして考えを記述することには課題がみられる。

県(中1)
 県平均と比べると、理科は正答率が高く、国語は同じ。
 国語は「教科総合」「基礎」「活用」とともに年々県平均に近づき、27年度は同じになった。観点別においても上昇傾向が見られる。
 国語の「漢字の書き」は県平均より正答率が高かったが、「文法」「書くこと」「読むこと」については県平均に届かない。
 社会と数学は、「基礎」が県平均に届かなかった。

【学習状況調査の結果】

全国(小6)
 「読書が好き」は県平均より高い。
 「やりとげてうれしかったことがありますか」「友だち同士の話し合い」「地域の行事への参加」など県平均よりも高い傾向にある。
 各教科を「好き」「大切」と感じている割合は高い傾向にある。
 「自分にはよいところがあると思う」は県平均より低い。
 「新しい問題を解いてみたいと思いますか」は県平均に届かない。

県(中1)
 困っている人を進んで助ける、外国の人と触れ合うことに関心がある等、県平均より高い。
 自己肯定感や将来に対する夢や目標を持つことは、県平均にかなり近づいた。
 自分の考えを説明したり書いたりするのは難しいと感じる児童が多い傾向にある。
 テレビやインターネット、スマートフォンの時間や使い方については、県平均より低い傾向にある。
 自然への興味・関心が低くなってきている。

成果と課題

朝のモジュール学習は子どもたちに定着し、集中して根気強く取り組む姿勢が身につけてきている。
 全校的に学習規律が定着し、落ち着いて学習に取り組む姿勢が整ってきている。
 (全国テスト)では、どの教科も力が発揮され始めている。
 (県テスト)では、4年前に比べると、どの教科も上昇してきている。今後も丁寧な指導の継続に努めていきたい。
 「文法」についての問題や「理由を書く(説明問題)」、「情報分析」の正答率が低い。
 予習に取り組む児童は増加しているが、全体的には家庭学習の時間が不足している。「家庭学習の手引き」を配布したが、復習などにも取り組めるよう保護者への協力呼びかけや学校での指導が必要である。
 PTAの取り組みもありテレビなどの視聴時間はやや減少傾向にあるが、インターネットの時間やスマートフォンの使い方については課題がある。引き続き児童・保護者への声かけを続けていく必要がある。

課題に対応した改善方法

落ち着いた学習環境を継続させ、基礎基本の徹底を図る。
 自分の考えを書く、相手のことを考えて話す(説明する・伝える)等、自己表現の場面を学校生活の中に多く設定していく。日々の授業、校内研修・公開授業を大切に、教職員の授業力向上に努めていく。
 実態に応じた「振り返り学習」に取り組み、モジュール学習では今回「国語」を一日設定したしかめテストを活用する。
 放課後学習「寺子屋・ひまわり」が効果的に行われるような様々な環境づくりに努める。
 全教職員で児童理解に努め、「チームとして高倉の子どもを育てていく」共通理解のもと、学校行事などを通して児童の達成感・満足感を大切に、自己肯定感が今以上に高まるように努めていく。
 地域や家庭との連携を大切に、積極的な情報発信(学級通信・学校だよりなど)に努め、テレビやインターネット、スマートフォン使用の時間を減らし、家庭学習(予習・復習・読書)の充実を図る。
 児童一人一人をしっかり見つめ、個々の子どもの頑張りや伸びを大切にしていこう。

取組の検証方法及び検証時期

校内研修学力向上部会のテスト(学期始・学期末)の検証結果を効果的に利用する。
 「学力向上部会」「健康とこころの向上部会」で連携を取り合い、情報の共有に努め、日々の教育活動に活かしていく。
 児童への「生活アンケート」実施と児童一人一人との面談。(毎学期)
 「家庭学習チャレンジシート」の検証と情報発信。(毎学期、中学校の定期テスト時期)
 上記の結果を受けて取り組みの見直しを随時図っていく。

平成28年度津山市達成目標に対する具体的な目標(数値目標等)

(全国学力テストについて)次年度も児童の理解力や表現力がさらに発揮されるようにし、全教科で県平均を上回る。
 (県学力テストについて)社会と数学の「基礎」については、県平均を目指す。
 「自分にはよいところがあると思う」と回答する児童・生徒の割合を県平均以上にする。
 家庭学習の時間を県平均に近づける。
 テレビやインターネット、スマートフォン使用の時間を県平均に近づける。